

第2回コンソーシアム協議会 令和5年8月25日(金) 宮崎県立図書館 <中部地区>

【出席者】 中部地区の代表(進行): 保田委員、全体会での報告: 大野委員、記録: 松田委員

|                           |        |
|---------------------------|--------|
| 県立みやざき中央支援学校              | 松田 律子  |
| 県立看護大学看護研究・研修センター         | 川原 瑞代  |
| 宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科         | 保田 浩美  |
| 障がい者自立応援センターYAH! D0 みやざき  | 山之内 俊夫 |
| 宮崎県肢体不自由児・者父母の会連合会        | 田中 聡子  |
| 宮崎市教育委員会生涯学習課             | 大野 路子  |
| 青島青少年自然の家 <委託先事業説明のために出席> | 藤崎 善樹  |

【協議の記録】

<中部地区の委託事業について>

- 青島青少年自然の家より、事業の進捗状況についての説明。心のバリアフリーの醸成。職員の障がいについての理解。態度や行動のよりよい変容。これまでの本事業の流れを踏まえていない状況がある。これから、どのようにしていくか協議していきたい。
- 取組が進んでいるので、この場で何を考えたらよいか意見が欲しい。
- 最終的には、青島地区の誰でも参加できるプログラムになるように考えればよいのでは。
- 障がいのある方も、気後れせずに参加できるか。
- SNS, インスタグラム、チラシ(小学校のみ)にしかしていない。
- 限定されている部分が多いので、主旨から外れているのではないか。
- 特性を知ることや、プログラムが変化していった経緯を知ることによって今後に活かしていけるのではないか。特性を知ることによって、どう変化したのかが分かる。
- 県立看護大学は、今年度依頼があったので、検討しているところである。
- とりかかりとして、視覚、聴覚に限定。公開講座のメニューを工夫する。
- コミュニティカフェ風に、オープンキャンパスのように実施することを考えている。
- 施設が充実しているので多くのことができると思われる。
- これまでの取組の中に、コーナーを設けるといいのではないか。
- ミニオープンキャンパスにする場合の広報のやり方をどうするか。
- 特別支援学校高等部も対象として行うなどが考えられる。
- 卒業後の選択肢に繋がるのではないか。高等部生徒に限らず、定員を決める。
- 今後のイメージとして、県立看護大学は地域、共生、協働は欠かせない。
- 学び続ける場を提供していくというスタンスは大切。

<広報番組について>

- 昨年度は、話合いの経過などが放送されたので良かった。今後も、それがいいのではないか。
- 話し合う場面など、生のやりとりが必要。
- 県立看護大学の学生が話し合っている様子を入れるのはどうか。
- その話合いに、柳田さんにも一緒に加わってもらうのはどうか。
- 学生の参加については、スケジュールが合わず難しいと思われる。
- イベント当日が放送に入らなくてもいいのではないか。

第2回コンソーシアム協議会 令和5年8月25日(金) 宮崎県立図書館 <南部地区>

【出席者】 南部地区の代表(進行): 川口委員、全体会での報告: 岡村委員、記録: 黒木委員

|                      |       |
|----------------------|-------|
| 県立都城きりしま支援学校         | 黒木 光博 |
| 南九州大学人間発達学部子ども教育学科   | 若宮 邦彦 |
| 都城市障がい者(児)基幹相談支援センター | 岡村 詩織 |
| 県立特別支援学校 PTA 連絡協議会   | 永迫 美紀 |
| 都城市障がい者自立支援協議会       | 川口 貴博 |
| 特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会 | 栗畑 貴志 |
| H・P・ミュージックサポート       | 牧原 峰男 |
| 都城市教育委員会生涯学習課        | 上原 里奈 |

【協議の記録】

<都城市生涯学習課の取組について>

- フットパス体験について。期日は10月7日(土)、9:00~12:00で決定したい。稲刈り前の田んぼ前を歩きたい。小中学校の運動会など他の行事との兼ね合いがある。
- 昨年度と同様に障がいのある方々の参加は20名程度と想定。参加が予想される団体(HPミュージックサポート、さつき園、都城きりしま支援学校、ポン太クラブ等)を考慮すると60名程度が予想される。参加申込は締め切りを決め、連絡する。
- 南九州大学(ななめプロジェクト)、高城高校等のボランティアを要請する。
- 雨天時は地区体育館を借りる。講師の壹岐氏に相談。HPミュージックサポートの演奏など。
- 参加費については、既存の生涯学習講座要領を参考にして、別途要領を設ける。

<広報業務について>

- ななめプロジェクトを取り上げてはどうか。体育、療育、子ども食堂など各分野で活動している。大学と地域とのつながりも伝えられる。11/18(土)公開講座も予定している。テーマは、「性のダイバーシティ」。インクルーシブは、障がいだけでなく、すべてを含んでいる。
- 本事業の、公民館モデル、大学講座等、それぞれをピックアップしてはどうか。
- 小林市でフットパスを行っているが、啓発が十分でない。都城市の公民館で行っている「みそしるの会」に障がいのある方が参加している。みどり園の活動で、公民館で出前事業(啓発)を行っている。それをきっかけに、福祉施設の行事で地域と繋がりができた。
- 「公民館モデル」よりも、「地域モデル」の名称のほうが、若い人達には伝わりやすい。
- HPミュージックサポートと柳田アナウンサーのコラボはどうか。
- タイトルは「つながる」のままで、視点を変えてはどうか。多様性もアピールしてはどうか。

<生涯学習講座のバリアフリー化について>

- 施設や学校への案内が必要。申し込みまでの支援も必要。当事者へ声が届いているのか。
- 「学びたい」気持ちを後押しできるように、意思表出や移動手段の支援が必要。
- それぞれの強みや特徴を生かすために情報を集約し、それらを地区の担当者がコーディネートすることも必要。大学は託児や情報保障のボランティア、施設は移動手段の提供。

第2回コンソーシアム協議会 令和5年8月25日(金) 宮崎県立図書館 <北部地区>

【出席者】 北部地区の代表(進行):高藤委員、全体会での報告:飯野委員、記録:戸高委員

県立延岡しろやま支援学校

高藤 優紀

九州保健福祉大学臨床心理学部臨床心理学科

戸高 翼

延岡市教育委員会社会教育課

飯野 小巻

【協議の記録】

<委託先事業の進捗状況について>

- 取組推進校の延岡しろやま支援学校は、聴覚部門の小中学部を対象にした講話を予定。9月1日(金)、12月8日(金)の2回実施予定。講師は卒業生。卒業後の生活や仕事などの話
- 公民館等モデルについて。延岡市社会教育課は、8月28日(月)講師等と打合せ予定。1回目は9月23日(土)に、プログラムを2つ準備。第1回連携協議会で配付された県作成のリーフレットに掲載されていたアンケート結果より内容を決定。ニーズが高かった体を動かす活動と、座位でできる活動。チラシは、しろやま支援学校の卒業生へ配付済み。
- 実施後のアンケートを参考に、2回目、3回目に生かしていく。第2回は防災キャンプ(デイキャンプ)、メイク等で計画予定。
- 申込フォームは、1回目の申し込み状況等で形式などを見直していく。
- 参加者の数などによって、コンソーシアム連携協議会委員の役割は決めていく。大学生にもボランティア参加を呼びかける。
- 今後は、延岡しろやま支援学校の卒業生へ案内し、卒業後の生涯学習につなげていく。

<広報業務について>

- 特別番組の取材先について。公民館等モデルは、延岡市社会教育課の取組を取材してほしい。
- ナビゲーターには、延岡市社会教育課の取組に、他の受講者と一緒に参加してもらえばいい。
- 昨年度と同じ「つながる」がよい。学びがつながる、地域とつながる、という意味になる。
- 啓発CMを通して、共生社会、生涯学習を理解してもらう。